

1 研究主題

主体的に学びを深める児童・生徒の育成
～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

2 研究主題設定の理由

2030年代からの社会は予測困難であり、社会は加速度的に変化していると言われている。そのような予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となる。そのためには、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である。学習指導要領では、「実際の社会や生活で生きて働く『知識及び技能』『思考力、判断力、表現力等』『学んだことを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』」を一人一人の子供に育成していくことが示されている。

そこで、海田西小学校で学ぶ児童一人一人が、高い志と意欲をもって、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくために必要な資質・能力を育成していくことが重要であると考え、研究主題を「主体的に学びを深める児童・生徒の育成～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～」と設定した。

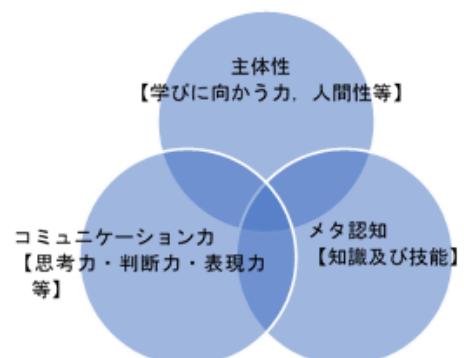
3 研究の仮説

PBL（プロジェクト型学習）の考え方をもとにした、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践において、主体的な学びを実現させるという視点に立って、実社会や実生活と関わる真正の学びに取り組めば、教科等における学習や体験等を効果的に関連させながら、テーマに対して自ら問いを立て、解決を目指して他者と協働しながら最善解を考え、自主自律を体現できる子どもを育成することができるだろう。

4 研究の概要

(1) 資質・能力の設定について

本中学校区で育成を目指す資質・能力は、「主体性」「コミュニケーション力」「メタ認知」である（図1）。これは、総合的な学習の時間の目標に示している資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成をより確かなものにする考えた。探究的な学習を通して、3つの柱と資質・能力は互いに影響を与え合い、単元を深めることで、相乗効果が生まれ、一つ一つがより大きな円となり、資質・能力が高まっていくと考える。



【図1 本中学校区の資質・能力】

(2) 資質・能力の定義

前年度の課題として、「主体性」「コミュニケーション力」「メタ認知」の定義が不透明なことから、総合的な学習の時間に育成を目指す資質・能力と本中学校区で育成を目指す資質・能力の整合性が取れず課題が残った。そこで、今年度は、資質・能力を以下の通り定義付け、研究を推進していく。

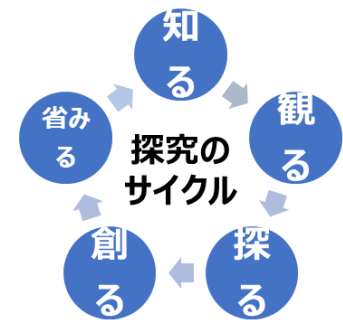
資質・能力	定義
主体性 【学びに向かう力、人間性等】	課題の解決に向け、自分の意思で目標をもち、周囲と協働しながら探究活動に粘り強く取り組むことができる。
コミュニケーション力 【思考力・判断力・表現力等】	探究の過程において、自らの考えをもち他者に伝えるとともに、異なる意見や考えを生かしながら合意形成を図り、他者と協力して問題の解決に向けた探究に取り組むことができる。
メタ認知 【知識及び技能】	実社会や実生活における「人、もの、こと」とのかかわりを通して、自分を俯瞰して捉え、考えを広げたり、深めたりしながら自己の生き方を考えることができる。

(3) 取組について

探究的な学習のプロセスを以下のように設定し、児童の学びの文脈を意識しながら取り組む。

- ・知る：フィールドワーク、事象との出会い
- ・観る：単元の見通し
- ・探る：体験活動、情報収集、思考ツール等の活用
- ・創る：発信、創作、実践等、実社会・実生活との関連
- ・省みる：振り返り、新たな課題への接続

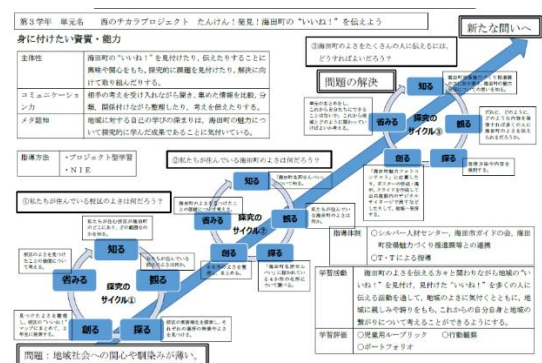
図2のプロセスの中で、①課題設定の仕方、②協働の場づくり、③メタ認知の3点に特に重点をおいて手立てを講じる。また、児童が探究課題を自分事として捉え、主体的に学びを深めるため、地域の「人、もの、こと」を、単元を通して効果的に活用する。



【図2：探究のサイクル】

(4) 「探究的な学び」を実現する単元構想

教師自身が生活科及び総合的な学習の時間における単元の見通しをもち、さらに単元を語る事ができるように、単元構想の「見える化」を図る単元構想図(図3)を作成する。単元全体の見通しをもつことは、本質的な問いに迫るうえでも重要な手立ての1つとなる。



【図3：単元構想図】

5 研究内容

1年目（令和3年度）	2年目（令和4年度）	3年目（令和5年度）
<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの理論研修 ○育成を目指す資質・能力を設定 ○PBLの考えを参考に，生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践（各学年1単位以上） ○実践をまとめたパワーポイント作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック試案 ○NIEや図書，タブレット等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの理論研修と実践交流 ○育成を目指す資質・能力の検証 ○探究的な学習についての，指導過程，指導（学習）方法，発問等についての授業研究（各学年1単位以上） ○実践をまとめたパワーポイント作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック活用 ○NIEや図書，タブレット等の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの実践報告（HP等） ○育成を目指す資質・能力の改善 ○PBLの考えを参考に，生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践・改善（各学年1単位以上） ○域外に普及するためのリーフレット作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック改善 ○NIEや図書，タブレット等の効果的な活用

6 検証計画について

指標	達成目標			検証時期	検証方法
	1年目	2年目	3年目		
児童・生徒の授業満足度	80%以上	85%以上	90%以上	2月	質問紙調査 個の変容
探究のプロセスを意識した児童・生徒の割合	80%以上	85%以上	90%以上	2月	質問紙調査 ポートフォリオの活用
単元計画の開発・実践	1単元以上	1単元以上	1単元以上	2月	成果物

7 校内研修計画について（次年度スタートしてから変更する）

月	日	研修【内容】（授業者）
4月	6日	全体研修①【方向性の共有】 ・昨年度までの研究報告 ・R5年度全体計画及び年間指導計画の共有 ・本質的な問い，単元を貫く問いの設定
5月	17日	全体研修②【単元構想シート及び単元構想図の作成について，指導案検討】 ・単元構想シート及び単元構想図について ・指導案検討（全体） ・指導助言 海田町教育委員会 高木 和希 様（希望）
6月	上旬	ブロック研修①（指導案検討） ・通級
	中旬	海田町探究的な学習の在り方に関する研究推進協議会

		兼 全体研修③【第3学年 総合的な学習の時間授業研究】(大野) ・指導助言 広島県教育委員会指導主事
		生活科・総合的な学習の時間単元構想シート及び単元構想図起案, 町教委提出
7月	上旬	ブロック研修②【研究授業】 ・通級
	中旬	単元構想シート及び単元構想図再提出
8月	中旬	全体研修④【指導案検討】(8月8日) ・生活科及び総合的な学習の時間指導案検討(各ブロック) ・指導案起案(8月10日)
	下旬	町教委へ指導案提出(8月23日頃)
9月	上旬	町教委へ再提出(7日まで)
	下旬	全体研修⑤【研究授業3】(25日~29日頃) ・1年(4時間目) ・5年(5時間目) ・研究協議 ・指導助言 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 永田 忠道 様
		N I E 学習発表会原稿起案 ブロック研修③【指導案検討】 ・日本語
10月	上旬	ブロック研修④【指導案検討】 ・専科1 ・にこにこ学級
	中旬	海田版「学びの変革」推進協議会 兼 海田町探究的な学習の在り方に関する研究推進協議会【研究会】 ・海田小公開研究会参加
	下旬	ブロック研修⑤【研究授業】 ・日本語学級
11月	2日	N I E 学習発表会 ※新聞を活用した, 生活科及び総合的な学習の時間で学習した内容の発信
	中旬	ブロック研修⑥【研究授業】 ・専科1 (○時間目) ・にこにこ学級 (○時間目)
	下旬	ブロック研修⑦【研究授業】※各ブロックで日程調整 ・2年2組 (○時間目) ・4年 (○時間目) ・6年 (○時間目)
12月	中旬	ブロック研修⑧【指導案検討】 ・専科2 ・なかよし学級

	下旬	全体研修⑥ ・成果と課題の整理・分析
1月	中旬	ブロック研修⑨【研究授業】 ・専科2（○時間目） ・なかよし学級（○時間目）
	下旬	全体研修⑦ ・年間指導計画の見直し ・次年度カリキュラムマネジメント
3月	中旬	全体研修⑧【総括】 ・1年間のまとめと振り返り ・次年度への展望
未定	未定	指導主事学校訪問 ブロック研修⑩ 【第2学年1組】教科 未定 ・指導助言 西部教育事務所 様
未定	未定	海田町グローバル人材育成事業 全体研修⑨ 【第3学年】教科 外国語活動 ・指導助言 比治山大学 教授 大牛 英則 様

【授業研究について】

- 全教諭1人1回以上，研究主題に沿う学習指導案を作成して授業研究を行う。
- 研究授業を行うにあたり，各ブロックで指導案検討と事後研修を行う。但し，全体研修2の指導案検討については，全体で行う。

【ブロック研修での授業研究の持ち方について】

- 低学年ブロック（1年，2年，日本語，研究主任，教頭，校長）
 中学年ブロック（3年，4年，（日本語），SSR，研究主任，教頭，校長）
 高学年ブロック（5年，6年，（日本語），音楽，研究主任，教頭，校長）
 特別支援ブロック（にこにこ，なかよし，かがやき，研究主任，教頭，校長）
 ※日本語学級は低学年ブロックに所属するが，研究授業は，中学年又は高学年で行ってもよい。
 その場合，指導案検討及び研究授業については，該当する学年のブロックで行うものとする。
- 今年度授業研究は，次のように実施する。
 - ・ 生活科又は総合的な学習の時間（1年，2年2組，4年，5年，6年）
 ※生活科，総合的な学習の時間については，授業の様子を動画で撮影する。
 - ・ 指導主事学校訪問（2年1組）
 - ・ 海田町グローバル人材事業（3年）
 - ・ 情緒障害学級は，研究主題に沿うものであれば教科を問わない。
 - ・ 知的障害学級や通級指導教室は，自立活動を行う。
 - ・ 専科については，担当する教科で実施する。専科1又は専科2については，担当教員で連携し，実施日を選択する。
 - ・ 授業後には，成果と課題を明確にして記録し，担当者に提出する。

※ 低学年ブロック記録(日本語), 中学年ブロック記録(S S R), 高学年ブロック記録(音楽),
特別支援ブロック記録(かがやき)

【全体研修の持ち方について】

- 研究授業を行う学級以外の児童下校後, 研究授業と協議を行う。
- 協議会の会場設営, 記録写真については, 教務部で行う。